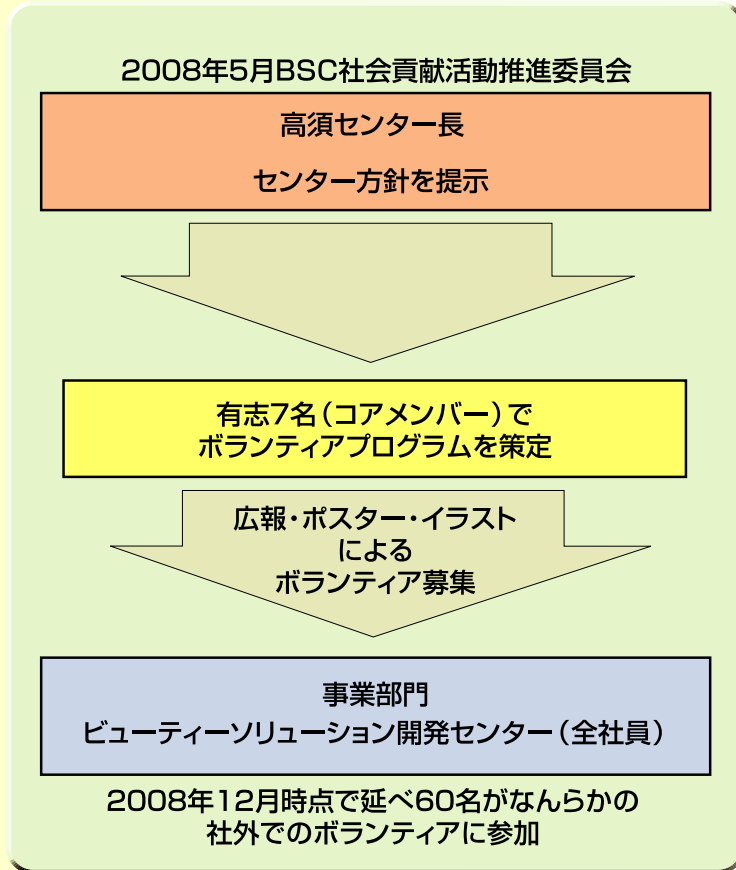


地域にも出てみる

株式会社資生堂 ビューティーソリューション開発センター



株式会社資生堂 ビューティーソリューション開発センター センター長
高須恵美子さん(51歳)

社会貢献への意識が高く環境が整備されている企業であっても、実際ボランティア活動を実践している社員はごくわずか。制度はあってもなかなか踏み出せない人も多い。資生堂ビューティーソリューション開発

センター(BSC)では、07年度に高須恵美子さんがセンター長に就任してから、社員への地域への動きが大きく変わった。従来はボランティアに参加するのは一部の社員だったが、今年度実施した社内での開発途上国教育支援バザーのほか、BSC社屋の向かいにある高齢者介護施設での「ビューティアップセミナー」、同じ品川区内にある小中一貫校での「笑顔講座(生徒171名受講)」さらに港区愛育病院での「両親学級」といった社外での活動に、BSC社員の延べ4割以上が積極的に参加している。

この変化の発端はBSC 08年度センター長方針発表。「視察に行ったアメリカでは企業の社会貢献は当たり前でした。私はBSCへの異動を機に、一市民として地域社会に参加することで多くの気づきや喜びを体験し心豊かな社員になつて欲しいとの

思いを含め、社員教育・研修プログラムにボランティア活動を盛り込みました」(高須さん)。08年5月に有志7名(コアメンバー)による『BSC社会貢献活動推進委員会』を発足させ、年間の社会貢献活動プログラムの構築とボランティアメニューを企画し、月例会・社内インフラ(EMAIL)・ポスターなどを通してセンター全員に呼びかけた。同委員会は通常業務を行いながら10分ほどの『隙間時間』をメンバー同士の打ち合わせにあてているという。

トップの決断ひとつで社員の地域への思いが具体的行動になって現れるのだ。社員間での気持ちにも自発性と温かなつながりが見え始めており、職場風土の醸成にも大きな成果が期待できそうだという。



東京都品川区小中一貫校日野学園「笑顔講座」にて(2008年11月28日実施)